

メキシコとトルコが提唱した WORLD ART DAY の制定をユネスコが承認

ユネスコ執行委員会第 206 回会合において、「4 月 15 日を WORLD ART DAY (ワールド・アート・デー) に定める」ことを提唱するメキシコとトルコの決議案が、全会一致で採択された。

この提唱は、ミロ、ブラック、ドローネー、ヴァザルリといった著名な芸術家らの支援の下 20 世紀半ばに創設されたユネスコ関連 NGO の「国際造形芸術協会 (AIAP : 団体名仏文略称)」が始めたものであり、2011 年にメキシコのグアダラハラ市で催された AIAP 総会で、レオナルド・ダ・ヴィンチの誕生日である 4 月 15 日をワールド・アート・デーに定める旨の提起がなされ、その採択をユネスコに求めることが可決された。

今回の決議採択を受けて、メキシコ政府ならびにトルコ政府は、その具体化へ取り組むことになる。芸術というものの古典的概念を尊重しつつ、芸術教育を振興し、生活水準の向上をめざすユネスコの事業を支援する。

メキシコ代表団によれば、このイニシアチブは、「2030 アジェンダの持続可能な開発目標」達成に向けた、文化の役割を推進する手段として提起された。また、アーティストたちの専門的・社会的・経済的状況の改善に貢献し得るものであり、且つ、芸術や文化遺産が人類に及ぼす多大なる影響を今一度認識するためのものである。

今回のワールド・アート・デー制定の決議採択は、芸術的創造に関連する各種産業とそれに付随する政策の戦略的役割を促進している文化大国メキシコの立場を確立することとなり、繁栄や幸福、文化的多様性の尊重や非差別の原則に重点を置くメキシコの「**Política Exterior Multilateral Transformadora** (試訳：革新的多国間外交政策)」の成果である。

ワールド・アート・デー制定の承認は 11 月のユネスコ総会でおこなわれる予定であり、記念日の実施は 2020 年 4 月 15 日からとなる。